地域ねこ
神戸灘区の取り組みから

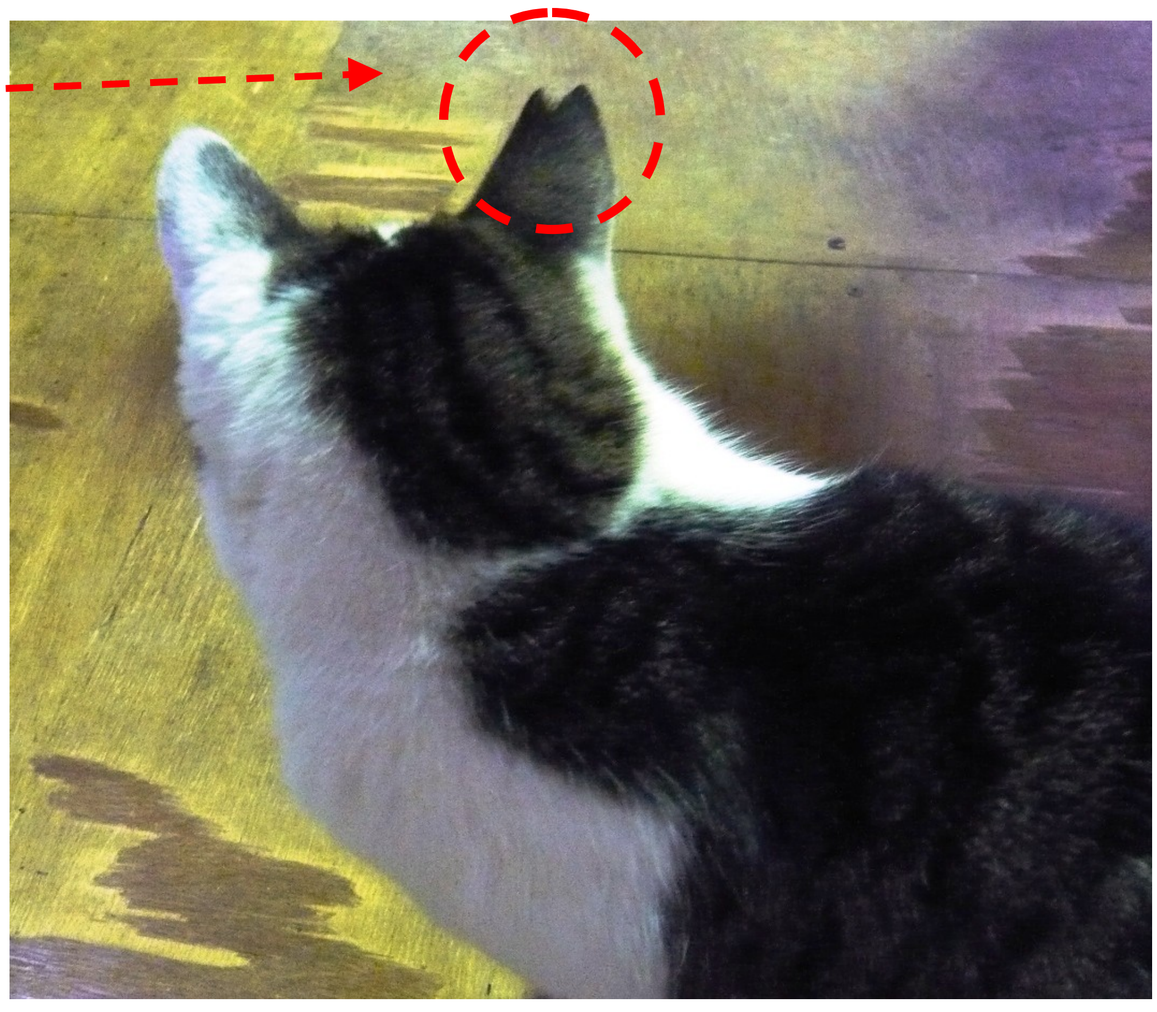
北海道内の保健所に収容される犬猫のうち、猫が占める割合は６割、札幌市では８割にもおよびます。その多くは目も開いていないような子猫たちで、ほとんどが殺処分されています。ここにご紹介するのは、神戸市灘区の地域猫の取り組みです。灘区では、ペット動物の適正飼養推進事業として、毎年犬や猫に関するさまざまな事業を行っていますが、平成22年度、灘区で活発な地域猫活動に取り組む３団体のこれまでのあゆみについて、各団体へのアンケートの結果をもとに活動紹介したものをお借りしました。これから、北海道でもこうした取り組みが行われ、地域猫活動に興味のある方、猫の問題に興味のある方に参考になれば幸いです。

地域猫活動ってなに？

横浜市磯子区で約１０年前に始まった活動。
特定の飼い主のいない猫に対し、その地域の住民が、地域の合意を得たうえで、避妊去勢手術・適正な給餌（エサやり）・排泄物の処理などを地域ぐるみで協力して行い、世話と管理を行う活動のこと。

　手術実施ずみの猫の目印としては耳にV字のカットを入れるなどの方法がとられている。
（再度捕獲してしまった場合に区別するため）

　将来的には飼い主のいない猫を減らすことを目的としている。



↑V字カットの入った猫→

灘区内における地域猫活動団体のご紹介

城の下通３丁目ねこの会

活動開始時期　　；平成１７年１１月
主要メンバー数　；８名
活動地域　　；灘区城の下通３丁目
地域全世帯数　　；約２００世帯
生息する猫の数　；約４５匹
地域の特性　　；摩耶山の入り口に近く、

付近に野良猫が多数生息

中原５・６・７丁目猫の会

活動開始時期　　；平成１９年１１月
主要メンバー数　；６名
活動地域　　；灘区中原通５～７丁目
地域全世帯数　　；約４００世帯
生息する猫の数　；約１５匹
地域の特性　　；主に住宅地だが、隣接地域（公園）
　　の捨て猫が増加、流入しやすい

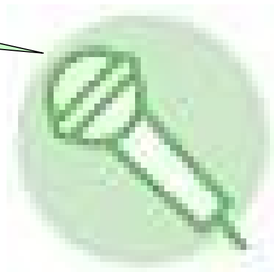
新在家西部町内会

活動開始時期　　；平成１９年１１月
主要メンバー数　；６名
活動地域　　；灘区新在家南町４・５丁目
地域全世帯数　　；約３７０世帯
生息する猫の数　；約２０匹
地域の特性　　；灘区では南に位置し、震災後、空地

が増加するとともに野良猫も増加

地域猫活動団体に聞きました

地域猫活動をはじめたきっかけは？



自治会への苦情の増加。（城の下）

町内にある摩耶山道入り口付近で野良猫が生息し、
鳴き声・ゴミあさり・フン害などの
苦情が増加していた。
自治会長が役所に相談に行き、
地域猫モデル地区募集を知った。

エサやりを引き継いだこと。（中原）

それまで猫にエサをあげていた住民が、
周囲の強い苦情を受けてやめたため、
現・猫の会会長が猫の世話を引き継ぐ決意をした。

エサやりが違法なものかどうか、
役所に問い合わせて、はじめて地域猫活動と
いうものを知った。

猫トラブルの仲裁に悩んで。（新在家）

阪神大震災後、地域に野良猫が増加。
猫にエサをやる住民・苦情を言う住民との間に
トラブルが発生し、役所に相談に行って
取り組みを知った。

どうやって地域猫活動を進めましたか？

個別訪問、懇談会。（城の下）

自治会長夫妻による個別訪問や、声かけにより
組織作りを実施。

・地域への全世帯アンケート実施
・実施猫問題について考える会の開催
・自治会新聞に猫問題の近況報告を載せ配布

頼れる限りの人に声をかけてまわった（中原）

猫の会の母体が自治会でないため、役所の求める
「地域で合意を得ること」へのハードルが高く、
非常にむずかしかった。

猫好きな方、知人友人などに声をかけ組織作りを行った。
バザーやアンケートは実施したが、中原では
地域合意を得る効果は薄かったと思う。

始めたらやめるわけにはいかなくなった。（新在家）

町内会役員への合意は、なかば会長の独断で得たが、
とにかく地域猫への取り組みを始めたら
やめるわけにはいかなくなったというのが
実情（会長談）

「地域猫活動」具体的には何をしましたか？

猫には・・・・

<u>状況調査</u>
・野良猫の生息数
・どこで、誰に、いつ、エサをもらっているか？
<u>避妊去勢手術</u>；捕獲、手術、リリース　※元の場所に戻す
<u>エサやりの管理</u>；場所、時間、内容
<u>清掃</u>；フンやエサの残り
<u>子猫の里親探し</u>
<u>病気の猫を動物病院に連れて行く</u>

里親引渡し前に動物病院で健康チェックすることもあります

人間側の問題も。

<u>エサやりをする方へのお願い</u>
・ルールを守ったエサやりの徹底
・隣接地域でエサやりのみ行っている方を訪問し手術実施への協力依頼
<u>猫に対する苦情者への対応</u>
・（苦情者住民の）敷地内の徹底したフン清掃
・つめとぎ防止シート配布
・意見調整など、トラブル緩和につとめる

こんなこともやります。

<u>地域猫活動に関するアピール</u>
・地域への活動報告チラシ配布
・動物愛護、虐待防止などのポスター作成
<u>管理費用の捻出</u>
・バザー実施
・アルミ缶、古紙などを回収し換金
・募金活動

地域猫活動を始めて困ったことは？

よかったことは？

困ったこと・・・・

・活動費用の確保（特に避妊去勢手術費用が高額）
・猫嫌いな方に対し、活動の理解を得ること
・捕獲作業が大変！
　なかなか捕まらない・・・・
　飼い猫か区別がつかない猫がいると捕まえられない
・苦情の出ない、エサを与える場所の確保
・１年３６５日、休みのないエサやりと清掃
・トイレの徹底
　用意しても、猫がそこでしてくれるとは限らない

よかったこと。

猫の会に対し
喜び、感謝の声が
寄せられました
（城の下）

・地域住民のつながりが深まった。
・活動に対する努力が認められ、協力体制が広がった。
・猫に関する苦情・トラブルが減少した。
・フン・尿・鳴き声の減少。
・保健所に持ち込まれる子猫を減らすことができた。
・ゴミあさりをする猫や、異常にやせた猫が
　いなくなった。

トイレいろいろ

←（左）プランターの土

←（右）段ボールに猫砂

（右）→

溝にすることも（掃除中）

地域猫活動をこれから始めようという方にひとこと！

地域猫活動を新たに始めるには

何が必要だと思いますか？

地域猫活動には覚悟が必要です。

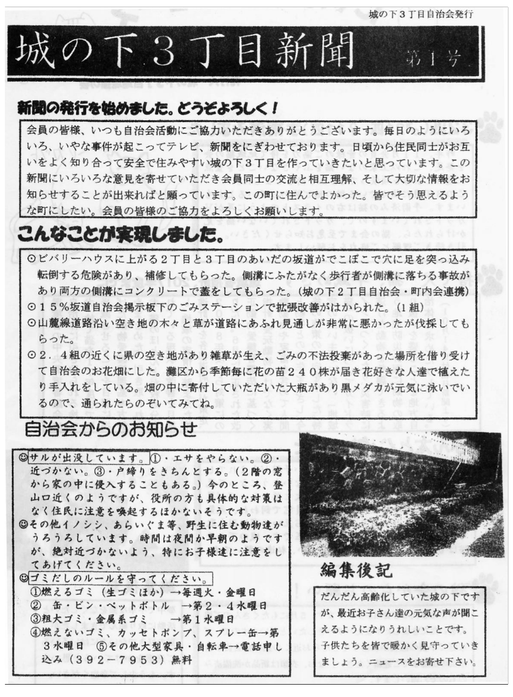
・活動に終わりはありません。
最低でも５～１０年は続けること。

・資金

・メンバーを１人でも多く増やす。
ただし、極端な猫好きの人は不向き。
近隣住民とコミュニケーションがうまくできない方も不向き。

・自動車；あれば、捕獲後の動物病院への搬送に便利

・地域住民の協力、合意


城の下３丁目自治会発行

城の下３丁目新聞　第１号

新聞の発行を始めました。どうぞよろしく！

会員の皆様、いつも自治会活動にご協力いただきありがとうございます。毎日のようにいろいろ、いやな事件が起こってテレビ、新聞をにぎわせております。日頃から住民同士がお互いをよく知り合って安全で住みやすい城の下３丁目を作っていきたいと思っています。この新聞にいろいろな意見を寄せていただき会員同士の交流と相互理解、そして大切な情報をお知らせすることが出来ればと願っています。この町に住んでよかった。皆でそう思えるような町にしたい。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

こんなことが実現しました。

⊙ビバリーハウスに上がる２丁目と３丁目のあいだの坂道がでこぼこで穴に足を突っ込み転倒する危険があり、補修してもらった。側溝にふたがなく歩行者が側溝に落ちる事故があり両方の側溝にコンクリートで蓋をしてもらった。（城の下２丁目自治会・町内会連携）
⊙１５％坂道自治会掲示板下のごみステーションで拡張改善がはかられた。（１組）
⊙山麓線道路沿い空き地の木々と草が道路にあふれ見通しが非常に悪かったが伐採してもらった。
⊙２．４組の近くに黒の空き地があり雑草が生え、ごみの不法投棄があった場所を借り受けて自治会のお花畑にした。瀦区から季節毎に花の苗２４０株が届き花好きな人達で植えたり手入れをしている。畑の中に寄付していただいた大瓶があり黒メダカが元気に泳いでいるので、通られたらのぞいてみてね。

自治会からのお知らせ

◎サルが出没しています。①・エサをやらない。②・近づかない。③・戸締りをきちんとする。（２階の窓から家の中に侵入することもある。）今のところ、登山口近くのようですが、役所の方も具体的な対策はなく住民に注意を喚起するほかないそうです。
◎その他イノシシ、あらいぐま等、野生に住む動物達がうろうろしています。時間は夜間か早朝のようですが、絶対近づかないよう、特にお子様達に注意をしてあげてください。
◎ゴミだしのルールを守ってください。
①燃えるゴミ（生ゴミほか）→毎週火・金曜日
②　缶・ビン・ペットボトル　→第２・４水曜日
③粗大ゴミ・金属系ゴミ　　→第１水曜日
④燃えないゴミ、カッセトボンブ、スプレー缶→第３水曜日　⑤その他大型家具・自転車→電話申し込み（３９２－７９５３）無料

編集後記

だんだん高齢化していた城の下ですが、最近お子さん達の元気な声が聞こえるようになりうれしいことです。子供たちを皆で暖かく見守っていきましょう。ニュースをお寄せ下さい。

にゃんにゃんニュース

発行日　平成１８年１１月１日
発行人　城の下３丁目地域猫の会

32匹（♂21匹、♀11匹）手術済みました

昨年、１１月会員の皆様のご協力を得て地域猫の会を発足、これ以上家のない猫をふやさないことを重点に避妊とお勢を頑張って３２匹手術をしました。
この３丁目に住んでいる猫の殆ど終わっているとおもいます。手術済みの猫は右のイラストのように耳がVカットされていますので、カットされていない猫を見かけられたら、猫の会まで至急お知らせください。
引き続きご理解とご協力をお願いします。

捨て犬・猫、半減めざす　環境省指針、2017年度までに

環境省の中央環境審議会は自治体に引き取られる捨て犬、捨て猫を17年度までに半減させることを目標に掲げた動物愛護管理基本方針をまとめた。引き取られた犬、猫のほとんどが殺処分されている現状の改善を目指し、地域の実情を踏まえた推進計画を各都道府県が策定、2008年度から対策にのりだす。6月に改正された改正動物愛護管理法に基づく指針。愛玩動物だけでなく実験動物や家畜を含めて人間と動物との共生をめざし、今後の施策の方向を示した。特定の飼い主がいない「地域猫」の扱いについてガイドラインをつくったり、災害時に逃げた動物を救護できるよう地域防災計画に動物の取り扱いを盛ることを地方自治体に求めたりしている。
（10月14日付朝日新聞より）

ぶん太とノンタンのこと

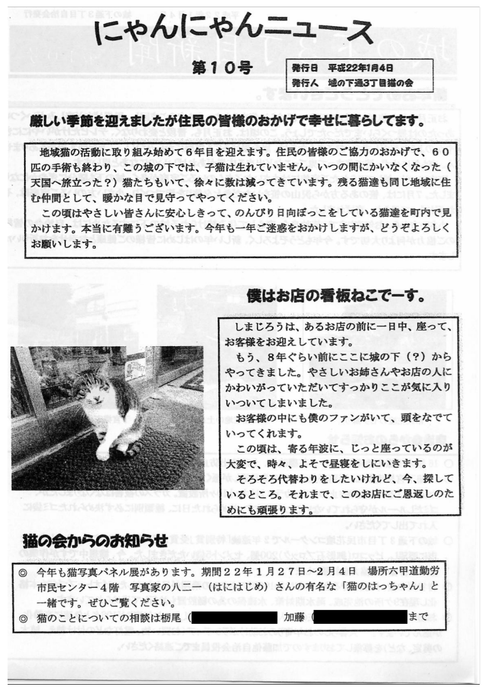
残念なことに今年の春、５匹でない子猫が生まれてしまいました。母が詰まり目も見えないようになって死にそうになっていた真っ白のぶん太と頭としっぽが黒いノンタンの兄弟は、猫の会の会員宅で飼われ、元気で大きくなっています。写真は、お互いの家に引き取られて、２ヶ月ぶりに再会した２匹です。城の下の子猫はもうこの子たちで最後にしたい、私達の願いです。

猫の会からのお願い！

手術やえさ代など費用がかかります。５月にもたくさんのご協力をいただきましたがまたバザーをしたいと思いますので、ご家庭で不要の品物がおありでしたらお近くの猫の会会員か自治会の加藤までご連絡ください。なお、衣類は新品か洗濯済みのものでお願いします。

編集後記

夢中で不幸な猫をなくしたいと活動に取り組んできましたが、猫の好きでない方にはいろいろご迷惑をかけていると思います。もう少しご辛抱ください。


にゃんにゃんニュース

第１０号

発行日　平成22年1月4日
発行人　城の下通3丁目猫の会

厳しい季節を迎えましたが住民の皆様のおかげで幸せに暮らしてます。

地域猫の活動に取り組み始めて６年目を迎えます。住民の皆様のご協力のおかげで、６０匹の手術も終わり、この城の下では、子猫は生れていません。いつの間にかいなくなった（天国へ旅立った？）猫たちもいて、徐々に数は減ってきています。残る猫達も同じ地域に住む仲間として、暖かな目で見守ってやってください。
この頃はやさしい皆さんに安心しきって、のんびり日向ぼっこをしている猫達を町内で見かけます。本当に有難うございます。今年も一年ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。

僕はお店の看板ねこでーす。

しまじろうは、あるお店の前に一日中、座って、お客様をお迎えしています。
もう、８年ぐらい前にここに城の下（？）からやってきました。やさしいお姉さんやお店の人にかわいがっていただいてすっかりここが気に入りいついてしまいました。
お客様の中にも僕のファンがいて、頭をなでていってくれます。
この頃は、寄る年波に、じっと座っているのが大変で、時々、よそで昼寝をしにいきます。
そろそろ代替わりをしたいけれど、今、探しているところ。それまで、このお店にご恩返しのためにも頑張ります。

猫の会からのお知らせ

◎　今年も猫写真パネル展があります。期間２２年１月２７日～２月４日　場所六甲道勤労市民センター４階　写真家の八二一（はにはじめ）さんの有名な「猫のはっちゃん」と一緒です。ぜひご覧ください。
◎　猫のことについての相談は樹尾（[redacted]　加藤（[redacted]まで

↑城の下通3丁目自治会発行の新聞（地域猫活動報告も兼ねています）

地域猫活動の現在および
これからの課題は？

人間への啓発

・エサをやる側の人間がルールを守ること。
・ペットブームの裏で、猫を捨てる人間がまだ存在する。
・一般市民に対して、「地域猫活動」についての周知
・「エサを与えるなら手術しなければならない」という意識を広げること。

資金（特に手術費用）の確保

・隣接地域から、手術していない猫の流入
→捕獲、手術の実施継続

組織としての課題

・地域猫の死、病気への対応
（会員の中でも意見の相違があるのでルールが作りにくい）
・世話人の生活環境の変化（引越し、入院など）
・極度の猫好きの方が町外へエサを与えに行ってしまう（猫の数が減り寂しくなって）

灘区の取り組みを参考に

神戸の灘区に寄せられる相談で最近多いのが、「野良猫を地域猫として世話したいのですが？」というものですが、実際は避妊去勢手術は未実施、単にエサをあげているだけという方も多いが実態です。このような「活動」は、本来の地域猫団体の活動の妨げになるだけではなく、猫たちのおかれる環境にとってもよくない結果を招くことになります。野良猫イコール地域猫ではなく、その地域に住む方々の合意なしには「地域猫」というものはありえません。神戸市では（社）神戸市獣医師会との協働により、飼い主のいない猫の増加によるご近所でのトラブル増加に対し、この問題を地域の問題としてとらえ、「地域猫」として適正管理を主体的に行う地域の住民団体に対し、管理する猫の避妊去勢手術を助成する制度を行っています。本展示における地域猫活動団体は、地域での合意や猫の管理などさまざまな点において苦労を経験し、ある程度成熟した結果を残すことができた方々です。これらの生の意見を聞くことで地域猫活動の現状を知っていただき、みなさまの周りにある問題の解決の糸口となることができれば幸いです。